幼小の教師の相互理解を進めるための工夫

――「なかよしバック」と「なかよし会議」での交流を通して――

幼児教育、幼小連携班　中村　美幸（小学校教諭）

主題設定の理由

・幼稚園と小学校教師が、互いに情報交換をするための機会や話合いの場がない。
・ 幼児、児童への援助、支援、子どものとらえ方の共通理解ができない。

→

「なかよしバック」
・幼稚園や小学校の生活や学習を知る。
・幼小連携への関心をもつ。

「なかよし会議」
・幼稚園、小学校教師が、幼児、児童の発達や援助、支援について具体的に考える。

→

幼小の教師の相互理解

実　践

手だて１「なかよしバック」　←→　**関　心**　**手だて２「なかよし会議」**

幼稚園・小学校全教師の実態調査（７月）

・「幼小連携の必要性について」→ 必要・やや必要である 約90%
・「幼小連携の実態について」→ ある・ややある 約40%

幼小連携は必要。実態は連携不足。

【なかよしバック】

・月に1度、園、学校だより、学年だよりを専用の袋に入れて交換。情報を交換することで、幼稚園や小学校の生活、学習の様子を知る。
・掲示板を活用した視覚に投げかけた間接的な交流。
・日常的に全教師に働きかけ、幼小連携の意識、関心の高まりが期待できる。

交換された情報は、園や学校ごとに職員室に掲示されている。

「幼稚園では○○があるね」「小学校では○○があるよ」と、互いの活動を知り、その活動を意識した声かけを幼児、児童に行うことができました。

「マナー教室」など、小学校にはない幼稚園での活動を知ることができました。小学校の指導で、ぜひ活用したいと思いました。

幼稚園・小学校全教師の実態調査（11月）

・「連携の必要性について」→ 必要・やや必要である 約95%
・「幼小連携の実態について」→ ある・ややある 約80%

新入学児童に関する幼稚園・小学校教師の実態

・「卒園した幼児がどのような生活や学習を送っているのか、実際に見る機会がないため、分からない」（幼稚園の教師）
・「幼稚園との交流がないため、入学するまで児童のことがほとんど分からない」（小学校の教師）

【なかよし会議】

・幼稚園5歳児と小学校１年の担任とで、会議を行う。
・幼稚園や小学校の教師が、幼児、児童の発達や援助、支援について具体的に考える。
・担任間での直接的な双方向の交流。
・幼稚園と小学校がより身近な存在となり、連携が深まることが期待できる。

話を聞くことができず、集中することが難しい児童がいます。どのような援助をしていますか。

手遊びを入れて、話し手を意識させるようにしています。

時間割での学習の始まりは大変ですね。

学習を15分ずつの短時間で区切り、児童の集中が継続するよう学習時間を工夫することもあります。

とてもいい取組ですね。

掲示物が工夫されていますね。

幼稚園では、援助とともに、環境の構成を大切にしています。

なかよし会議のアンケート

・「児童の入学時の児童の不安が少しでも小さくなればと思った。今回の会議では、幼稚園での指導を継続させる面、発展させる面を考えるいい機会になった。」（小学校の教師）

教師が幼小連携を意識し、関心をもつことができた。

教師が幼小連携を意識した取組への共通理解ができた。

成果と課題

【成果】
○「なかよしバック」と「なかよし会議」を活用することで、定期的な幼稚園と小学校との交流をもつことができ、教師が幼小連携を意識し、関心をもつことができた。
○幼稚園や小学校での具体的な援助、支援が互いに見え、相互理解に向けての第一歩を進めることができた。

【課題】
○今後は保育参観や授業参観などの活動を取り入れ、幼児や児童のための教育課程の修正が必要である。
○「なかよしバック」や「なかよし会議」を活用した、保育園との連携も考える必要がある。